

作物統計調査

令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（近畿）

近畿の令和7年産主食用米の予想収穫量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は47万1,500トン（前年産に比べ2万9,500トン増加）の見込み

【調査結果の概要】

- 1 近畿の令和7年産水稻の9月25日現在の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm、1.90mm）ベースの予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））※は47万1,500 tで、前年産に比べ2万9,500 t増加と見込まれる。

※ 生産者が使用しているふるい目幅1.80mm、1.85mm、1.90mmベースのふるい上米

これは、作付面積（主食用）が9万3,500haで前年産に比べ2,900ha増加と見込まれることに加え、9月25日現在における10 a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）が504kgで前年産に比べ16kg増加と見込まれるためである。

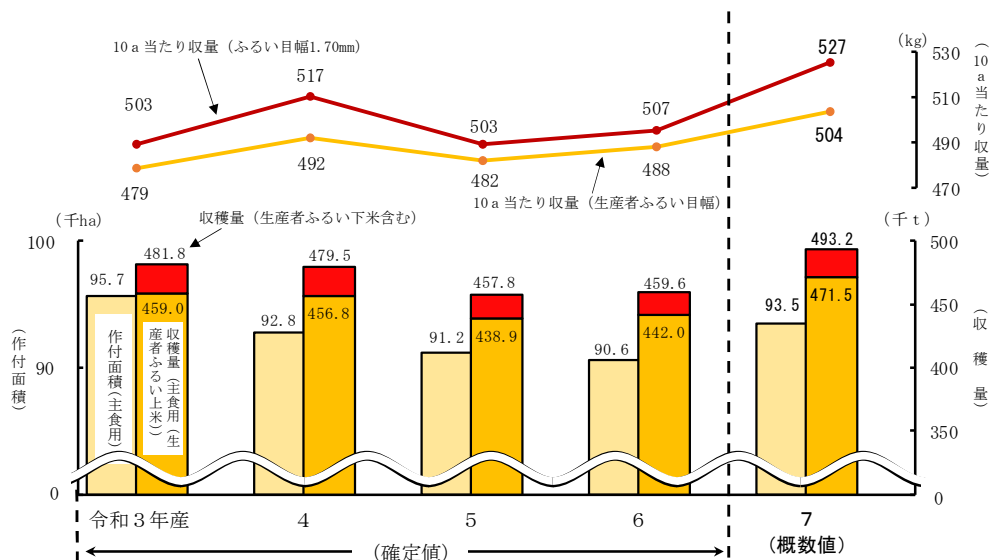
- 2 近畿の作況単収指数は104と見込まれる。

参考

近畿の水稻の9月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は49万3,200 tで前年産に比べ3万3,600 t増加と見込まれる。

- 今回から生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅 1.80 mm、1.85 mm、1.90 mm で収穫量を公表することとし、前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅 1.70 mm の収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

図 水稻の作付面積（主食用）、10 a 当たり収量及び収穫量の推移（近畿）



- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（12ページ【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。
- 作況単収指数は、10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移

1 近畿

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
	主食用		10a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量（主食用 （生産者ふるい 上米））	10a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量（主食用 （生産者ふるい 下米含む））	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	107,900	101,900	495	nc	504,300	508	102	517,700	100
28	107,000	100,500	505	102	508,400	516	102	519,000	101
29	106,000	99,400	498	99	494,700	510	99	507,000	99
30	105,800	99,500	489	98	486,200	502	98	498,700	98
令和元	105,200	99,000	491	100	486,200	503	100	498,000	99
2	104,100	97,700	465	95	454,100	490	97	478,000	96
3	103,000	95,700	479	103	459,000	503	103	481,800	99
4	100,900	92,800	492	103	456,800	517	103	479,500	103
5	99,300	91,200	482	98	438,900	503	97	457,800	101
6	98,000	90,600	488	101	442,000	507	101	459,600	101
7 (概数値)	98,400	93,500	504	103	471,500	527	104	493,200	104

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 作付面積（主食用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。

4 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成27年産から令和元年産まで： 全国農業地域ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である（近畿1.80mm）。

令和2年産以降： 都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である（滋賀県1.90mm、京都府1.85mm、大阪府1.80mm、兵庫県1.85mm、奈良県1.80mm、和歌山県1.80mm）。

5 前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

6 作況単収指数は、10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。また、平成27年産から令和元年産までの作況単収指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、令和2年産以降の作況単収指数は生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した数値である。なお、令和元年産以前と令和2年産以降でふるい目幅に変更があったことから、令和2年産以降の5か年中3年平均を計算するに当たり、過去5年分（平成27年産から令和元年産）の10a 当たり収量について、令和2年産以降の計算方法と同じ手法で再計算したものをを用いた。

7 「nc」は、計算不能であることを示している。

2 滋賀県

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
	主食用		10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	33,200	30,600	504	nc	154,200	518	103	158,500	100
28	33,000	30,200	525	104	158,600	534	103	161,300	103
29	32,900	30,000	504	96	151,200	517	97	155,100	98
30	32,900	30,100	501	99	150,800	512	99	154,100	98
令和元	32,900	30,200	498	99	150,400	509	99	153,700	99
2	32,400	29,700	475	95	141,100	509	100	151,200	99
3	32,100	28,900	483	102	139,600	519	102	150,000	101
4	31,400	27,700	487	101	134,900	523	101	144,900	101
5	30,600	27,000	470	97	126,900	504	96	136,100	98
6	30,300	27,400	484	103	132,600	517	103	141,700	101
7 (概数値)	30,700	29,300	505	104	148,000	538	104	157,600	105

3 京都府

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
	主食用		10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	15,200	14,400	500	nc	72,000	510	101	73,400	100
28	15,100	14,300	507	101	72,500	516	101	73,800	101
29	14,900	14,100	501	99	70,600	510	99	71,900	99
30	14,700	13,900	491	98	68,200	502	98	69,800	98
令和元	14,600	13,800	495	101	68,300	505	101	69,700	99
2	14,500	13,800	484	98	66,800	501	99	69,100	99
3	14,400	13,600	486	100	66,100	504	101	68,500	100
4	14,300	13,400	497	102	66,600	514	102	68,900	102
5	14,100	13,200	489	98	64,500	502	98	66,300	101
6	13,900	13,000	512	105	66,600	527	105	68,500	105
7 (概数値)	13,800	13,200	520	102	68,600	536	102	70,800	106

4 大阪府

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
	主食用		10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	5,450	5,440	477	nc	25,900	495	100	26,900	99
28	5,320	5,310	491	103	26,100	505	102	26,800	101
29	5,160	5,150	490	100	25,200	506	100	26,100	101
30	5,010	5,000	475	97	23,800	494	98	24,700	99
令和元	4,860	4,850	485	102	23,500	502	102	24,300	101
2	4,710	4,700	448	92	21,100	472	94	22,200	93
3	4,630	4,620	476	106	22,000	490	104	22,600	99
4	4,550	4,540	489	103	22,200	503	103	22,800	102
5	4,450	4,430	489	100	21,700	503	100	22,300	102
6	4,300	4,290	472	97	20,200	483	96	20,700	98
7 (概数値)	4,100	4,100	488	103	20,000	504	104	20,700	102

5 兵庫県

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
		主食用	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	38,200	35,700	488	nc	174,200	501	103	178,900	101
28	38,000	35,400	490	100	173,500	501	100	177,400	100
29	37,700	35,100	489	100	171,600	501	100	175,900	100
30	38,000	35,500	479	98	170,000	492	98	174,700	98
令和元	37,900	35,300	484	101	170,900	497	101	175,400	100
2	37,600	34,800	455	94	158,300	477	96	166,000	95
3	37,200	34,100	468	103	159,600	491	103	167,400	99
4	36,200	32,800	487	104	159,700	513	104	168,300	103
5	36,000	32,500	478	98	155,400	497	97	161,500	101
6	35,700	32,200	475	99	153,000	491	99	158,100	100
7 (概数値)	36,400	33,600	493	104	165,600	516	105	173,400	104

6 奈良県

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
		主食用	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	8,980	8,850	501	nc	44,300	515	100	45,600	99
28	8,830	8,680	512	102	44,400	525	102	45,600	101
29	8,730	8,580	508	99	43,600	521	99	44,700	100
30	8,660	8,530	499	98	42,600	514	99	43,800	99
令和元	8,560	8,450	502	101	42,400	515	100	43,500	100
2	8,540	8,430	462	92	38,900	482	94	40,600	92
3	8,520	8,400	502	109	42,200	512	106	43,000	100
4	8,510	8,350	512	102	42,800	522	102	43,600	102
5	8,350	8,200	507	99	41,600	517	99	42,400	101
6	8,070	7,960	517	102	41,200	526	102	41,900	103
7 (概数値)	7,810	7,750	515	100	39,900	528	100	40,900	102

7 和歌山県

年 産	作付面積 (青刈り面積を 含む。)		生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
		主食用	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 上米))	10 a 当たり 収 量	対前年産比	収穫量(主食用 (生産者ふるい 下米含む))	
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t	
平成27年産	6,900	6,900	488	nc	33,700	499	101	34,400	101
28	6,720	6,720	496	102	33,300	507	102	34,100	102
29	6,560	6,560	496	100	32,500	507	100	33,300	101
30	6,430	6,430	479	97	30,800	492	97	31,600	98
令和元	6,360	6,360	482	101	30,700	494	100	31,400	99
2	6,250	6,250	446	93	27,900	462	94	28,900	91
3	6,100	6,100	484	109	29,500	497	108	30,300	100
4	5,990	5,980	511	106	30,600	519	104	31,000	106
5	5,790	5,780	498	97	28,800	506	97	29,200	103
6	5,690	5,680	500	100	28,400	506	100	28,700	102
7 (概数値)	5,600	5,600	525	105	29,400	533	105	29,800	106

【調査結果】

1 近畿

- (1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は9万8,400haで前年産に比べ400ha増加が見込まれる。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は9万3,500haで前年産に比べ2,900ha増加が見込まれる。

- (2) 9月25日現在における近畿の水稻の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、504kg（前年産に比べ+16kg）と見込まれる。

これを府県別にみると、滋賀県は505kg（前年産に比べ+21kg）、京都府は520kg（同+8kg）、大阪府は488kg（同+16kg）、兵庫県は493kg（同+18kg）、奈良県は515kg（同△2kg）、和歌山県は525kg（同+25kg）と見込まれる。

- (3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は47万1,500t（前年産に比べ2万9,500t増加）と見込まれる。

- (4) 近畿の作況単収指数は104と見込まれる。

これを、府県別にみると滋賀県が105、京都府が106、大阪府が102、兵庫県が104、奈良県が102、和歌山県が106と見込まれる。

参考

9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は、527kg（前年産に比べ+20kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は49万3,200t（前年産に比べ3万3,600t増加）と見込まれる。

表1 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（近畿）

農 業 地 域 府 県	作付面積（主食用）				生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別						作 況 単 収 指 数
	実 数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10 a 当たり 予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））				
		実 数 ②	前年産 との比較	実 数 ③＝①×②	前年産との比較	実 数 ④	前年産 との比較	実 数 ⑤＝①×④	前年産との比較								
対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%				
近 畿	93,500	2,900	103	504	103	471,500	29,500	107	527	104	493,200	33,600	107	104			
滋 賀	29,300	1,900	107	505	104	148,000	15,400	112	538	104	157,600	15,900	111	105			
京 都	13,200	200	102	520	102	68,600	2,000	103	536	102	70,800	2,300	103	106			
大 阪	4,100	△ 190	96	488	103	20,000	△ 200	99	504	104	20,700	0	100	102			
兵 庫	33,600	1,400	104	493	104	165,600	12,600	108	516	105	173,400	15,300	110	104			
奈 良	7,750	△ 210	97	515	100	39,900	△ 1,300	97	528	100	40,900	△ 1,000	98	102			
和 歌 山	5,600	△ 80	99	525	105	29,400	1,000	104	533	105	29,800	1,100	104	106			

注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量については、府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

4 近畿の予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））については府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

5 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

6 「△」は、減少したものを示している（以下同じ。）。

2 滋賀県

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は3万700ha（前年産に比べ400ha増加）と見込まれる。

また、主食用作付面積は2万9,300ha（前年産に比べ1,900ha増加）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「多い」となった。これは、田植期以降一時的に日照不足となった時期がみられたものの、生育期間を通して高温・多照傾向で経過したため、分けつが促進され穂数が前年と比べ多くなったことに加え、1穂当たりもみ数が前年を上回ったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、出穂・開花期の高温により前年同様不稔もみの発生がみられたこと、もみ数が多くなったことに伴う相反作用等で前年に比べ「やや少ない」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は505kg（前年産に比べ+21kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、湖南506kg（前年産に比べ+15kg）、湖北503kg（同+36kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は14万8,000t（前年産に比べ1万5,400t増加）と見込まれる。

(4) 滋賀県の作況単収指数は105と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は湖南が103、湖北が109と見込まれる。

参考

9月25日現在の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は538kg（前年産に比べ+21kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、湖南が541kg（前年産に比べ+17kg）、湖北が531kg（同+30kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は15万7,600t（前年産に比べ1万5,900t増加）と見込まれる。

表2 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（滋賀県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a 当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a 当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	対 比	%	実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較 対 差	対 比	%
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
滋 賀	29,300	1,900	107	505	104	148,000	15,400	112		538	104	157,600	15,900	111	

表3 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、作柄表示地帯別10a 当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（滋賀県）

府 県 作 柄 表示地帯	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10a 当たり 予想収量 (1.90mm)	前年産との比較 対 比	10a 当たり 予想収量	前年産との比較 対 比	穂数の 多少	1 穂当たりもみ 数の多少	全もみ数 の多少	千もみ当たり 収量の多少	
		対 差	対 比									
	ha	ha	%	kg	%	kg	%					
滋 賀	30,700	400	101	505	104	538	104	多い	やや多い	多い	やや少ない	105
湖 南	…	nc	nc	506	103	541	103	多い	やや多い	多い	やや少ない	103
湖 北	…	nc	nc	503	108	531	106	多い	やや多い	多い	やや少ない	109

注：「…」は調査を欠くもの、「nc」は計算不能を示している（以下同じ。）。

3 京都府

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,800ha（前年産に比べ100ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は1万3,200ha（前年産に比べ200ha増加）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「多い」となった。これは、田植期以降、天候に恵まれ、特に6月～7月にかけて前年より高温・多照で経過したことから、分けつが旺盛となって穂数が前年と比べ多くなったことに加え、1穂当たりもみ数が前年並みとなったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、もみ数が多くなったことに伴う相反作用等で前年に比べ「少ない」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は520kg（前年産に比べ+8kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、南部が545kg（前年産に比べ+7kg）、北部が496kg（同+9kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は6万8,600t（前年産に比べ2,000t増加）と見込まれる。

(4) 京都府の作況単収指数は106と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は南部が108、北部が103と見込まれる。

参考

9月25日現在の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は536kg（前年産に比べ+9kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、南部が561kg（前年産に比べ+7kg）、北部が512kg（同+12kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は7万800t（前年産に比べ2,300t増加）と見込まれる。

表4 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（京都府）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較			実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較		
							対 差	対 比					対 差	対 比	
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
京 都	13,200	200	102	520	102	68,600	2,000	103		536	102	70,800	2,300	103	

表5 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、作柄表示地帯別10a当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（京都府）

府 県 ・ 作 柄 表示地帯	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10a当たり 予想収量 (1.85mm)	前年産との 比較	10a当たり 予想収量	前年産との 比較	穂数の 多少	1 穂当たりもみ 数の多少	全もみ数の 多少	千もみ当たり 収量の多少	
		対 差	対 比									
	ha	ha	%	kg	%	kg	%					
京 都	13,800	△100	99	520	102	536	102	多い	前年並み	多い	少ない	106
南 部	…	nc	nc	545	101	561	101	多い	前年並み	多い	少ない	108
北 部	…	nc	nc	496	102	512	102	多い	前年並み	多い	少ない	103

4 大阪府

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は4,100ha（前年産に比べ200ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は4,100ha（前年産に比べ190ha減少）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「やや多い」となった。これは、6月下旬以降日照時間が前年を上回って経過し、分けつが促進されたことから、穂数が前年と比べ多くなったこと、1穂当たりもみ数が穂数増による相反作用でやや少なくなったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、出穂期以降、気象がおおむね前年並みに推移していることから「前年並み」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は488kg（前年産に比べ+16kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は2万t（前年産に比べ200t減少）と見込まれる。

(4) 大阪府の作況単収指数は102と見込まれる。

参考

9月25日現在の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は504kg（前年産に比べ+21kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は2万700t（前年産並み）と見込まれる。

表6 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（大阪府）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	対 比	%	実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較 対 差	対 比	%
大 阪	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
	4,100	△190	96	488	103	20,000	△200	99		504	104	20,700	0	100	

表7 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、10a当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（大阪府）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）				生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量 (1.80mm)	前年産との比較 対 比	10 a 当たり 予想収量	前年産との比較 対 比	穂数の 多少	1穂当たりもみ 数の多少	全もみ数の 多少	千もみ当たり 収量の多少		
		対 差	対 比										
大 阪	ha	ha	%	kg	%	kg	%	多い	やや少ない	やや多い	前年並み	102	

5 兵庫県

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は3万6,400ha（前年産に比べ700ha増加）と見込まれる。

また、主食用作付面積は3万3,600ha（前年産に比べ1,400ha増加）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「多い」となった。これは、梅雨明けが早まったことにより6月中旬以降高温・多照で経過し分けつが促進され、穂数が前年に比べ多くなったこと、1穂当たりもみ数が穂数増による相反作用等でやや少なくなったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、もみ数が多くなったことに伴う相反作用等が見込まれることから前年に比べ「少ない」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は493kg（前年産に比べ+18kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、県南が494kg（前年産に比べ+21kg）、県北が485kg（同+4kg）、淡路が493kg（同+3kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は16万5,600t（前年産に比べ1万2,600t増加）と見込まれる。

(4) 兵庫県の作況単収指数は104と見込まれる。また、作柄表示地帯別の作況単収指数は県南が104、県北が103、淡路が104と見込まれる。

参考

9月25日現在の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は516kg（前年産に比べ+25kg）と見込まれる。作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（同）は、県南が518kg（前年産に比べ+29kg）、県北が501kg（同+7kg）、淡路が525kg（同+11kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は17万3,400t（前年産に比べ1万5,300t増加）と見込まれる。

表8 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（兵庫県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	対 比		実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較 対 差	対 比	
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
兵 庫	33,600	1,400	104	493	104	165,600	12,600	108		516	105	173,400	15,300	110	

表9 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、作柄表示地帯別10a当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（兵庫県）

府 県 作 柄 表示地帯	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量 (1.85mm)	前年産との比較 対 比	10 a 当たり 予想収量	前年産との比較 対 比	穂数の 多少	1 穂当たりもみ 数の多少	全もみ数の 多少	千もみ当たり 収量の多少	
		対 差	対 比									
	ha	ha	%	kg	%	kg	%					
兵 庫	36,400	700	102	493	104	516	105	多い	やや少ない	多い	少ない	104
県 南	…	nc	nc	494	104	518	106	多い	やや少ない	多い	少ない	104
県 北	…	nc	nc	485	101	501	101	多い	前年並み	多い	少ない	103
淡 路	…	nc	nc	493	101	525	102	やや多い	前年並み	やや多い	やや少ない	104

6 奈良県

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は7,810ha（前年産に比べ260ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は7,750ha（前年産に比べ210ha減少）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「やや多い」となった。これは、田植期以降、多照傾向で経過したことから、分けつが促進され穂数が前年と比べやや多くなったこと、1穂当たりもみ数が前年並みとなったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、出穂期以降も天候に恵まれているものの、もみ数が多くなったことに伴う相反作用等が見込まれることから前年に比べ「やや少ない」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は515kg（前年産に比べ△2kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は3万9,900t（前年産に比べ1,300t減少）と見込まれる。

(4) 奈良県の作況単収指数は102と見込まれる。

参考

9月25日現在における10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は528kg（前年産に比べ+2kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は4万900t（前年産に比べ1,000t減少）と見込まれる。

表10 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（奈良県）

府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
		対 差	対 比	実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	対 比	%	実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較 対 差	対 比	%
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
奈 良	7,750	△210	97	515	100	39,900	△1,300	97		528	100	40,900	△1,000	98	

表11 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、10a当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（奈良県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量 (1.80mm)	前年産との比較 対 比	10 a 当たり 予想収量	前年産との比較 対 比	穂数の 多少	1 穂当たりもみ 数の多少	全もみ数の 多少	千もみ当たり 収量の多少	
		対 差	対 比									
	ha	ha	%	kg	%	kg	%					
奈 良	7,810	△260	97	515	100	528	100	やや多い	前年並み	やや多い	やや少ない	102

7 和歌山県

(1) 令和7年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は5,600ha（前年産に比べ90ha減少）と見込まれる。

また、主食用作付面積は5,600ha（前年産に比べ80ha減少）と見込まれる。

(2) 主な収量構成要素をみると、全もみ数は、前年に比べ「多い」となった。これは、6月中旬以降、気温・日照時間ともに前年を上回って経過し、分けつが旺盛となって穂数が前年と比べ多くなったこと、1穂当たりもみ数が天候に恵まれ穂数増による相反作用の影響が少なく前年並みとなったこと等による。

千もみ当たり収量（登熟）は、出穂期以降、気象がおおむね前年並みに推移しているものの、全もみ数が多いことによる相反作用の影響から「やや少ない」と見込まれる。

このことから、9月25日現在の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は525kg（前年産に比べ+25kg）と見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は2万9,400t（前年産に比べ1,000t増加）と見込まれる。

(4) 和歌山県の作況単収指数は106と見込まれる。

参考

9月25日現在における10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は533kg（前年産に比べ+27kg）と見込まれる。また、主食用作付面積に10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は2万9,800t（前年産に比べ1,100t増加）と見込まれる。

表12 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（和歌山県）

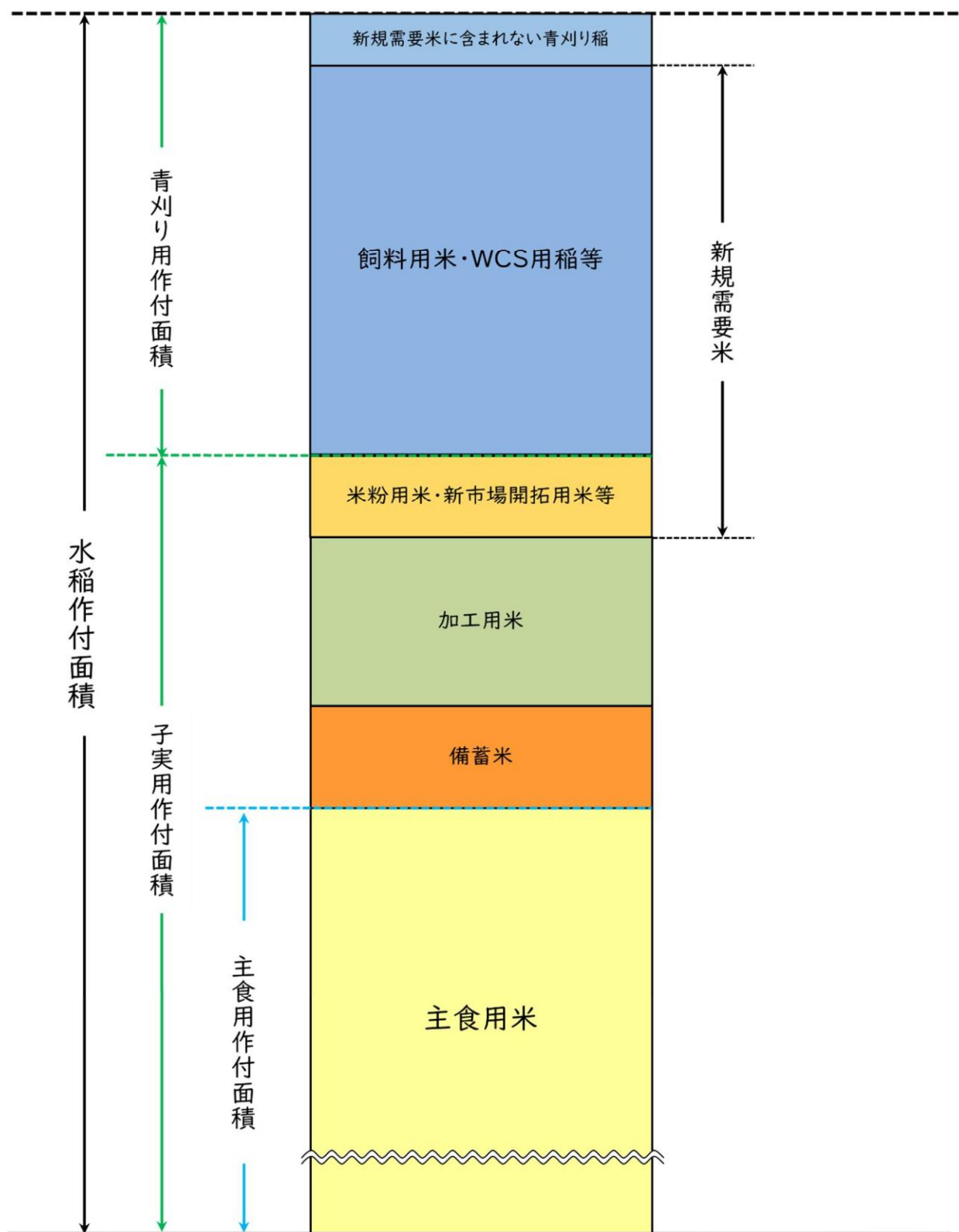
府 県	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較		10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				10a当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））			
				実 数 ②	前年産との比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較 対 差	対 比		実 数 ④	前年産との比較 対 比	実 数 ⑤=①×④	前年産との比較 対 差	対 比	
		対 差	対 比												
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%		kg	%	t	t	%	
和 歌 山	5,600	△80	99	525	105	29,400	1,000	104		533	105	29,800	1,100	104	

表13 水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）、10a当たり予想収量及び主な収量構成要素の前年比較（9月25日現在）（和歌山県）

府 県	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用している ふるい目幅で選別		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数
	実 数	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量 (1.80mm)	前年産との比較 対 比	10 a 当たり 予想収量	前年産との比較 対 比	穂数の 多少	1 穂当たりもみ 数の多少	全もみ数の 多少	千もみ当たり 収量の多少	
		対 差	対 比									
	ha	ha	%	kg	%	kg	%					
和 歌 山	5,600	△90	98	525	105	533	105	多い	前年並み	多い	やや少ない	106

【参考 1】

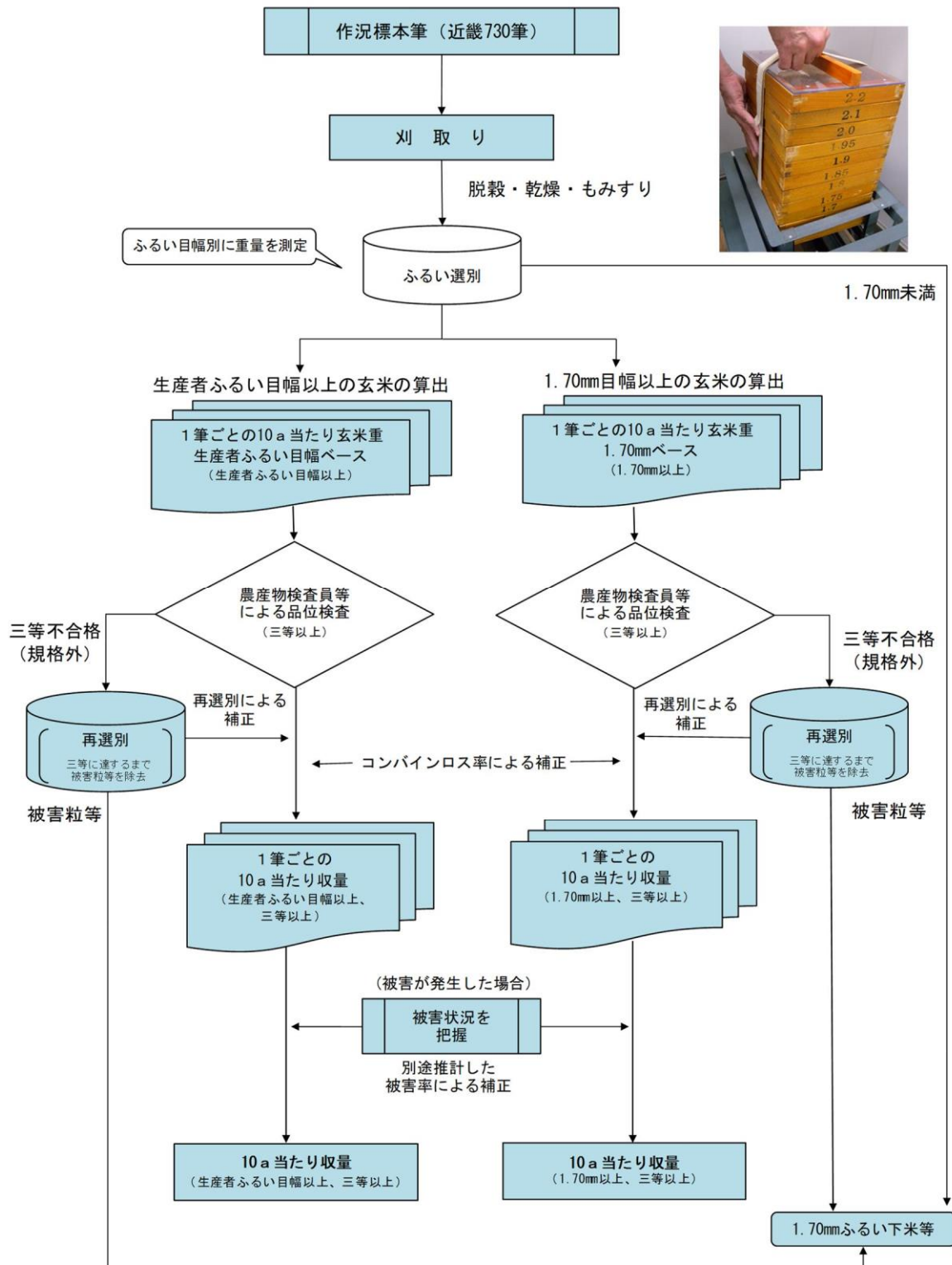
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

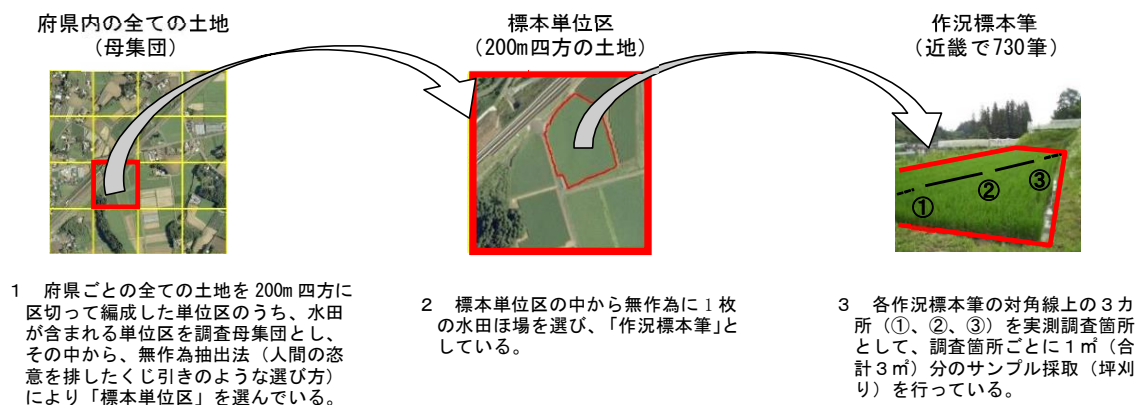
作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い 10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。



【参考 3】

作 況 標 本 筆 と は

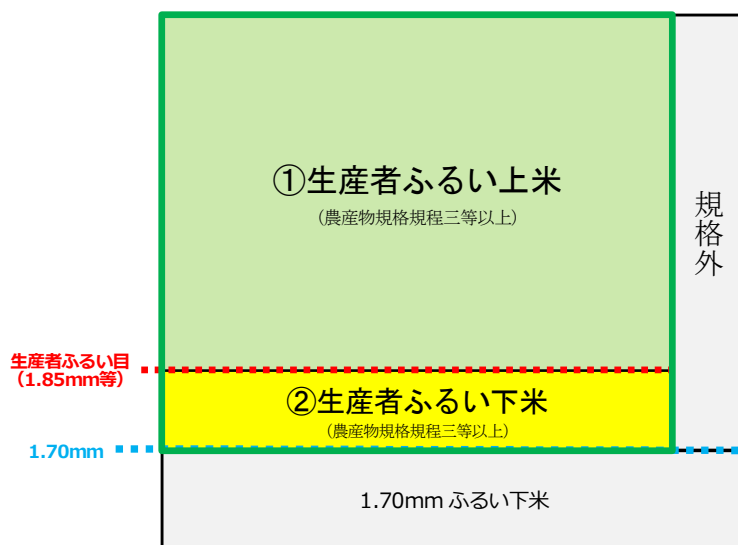
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（近畿で 730 筆）調査している。



【参考 4】

水稲収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.80、1.85、1.90mm）以上で農産物規格規格三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規格三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【統計表】

https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/d/excel/07_suitou0925.xlsx

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は、近畿農政局ホームページの統計情報に掲載している統計調査結果の「農林水産統計（第1報）」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/index2.html#ippou>

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和8年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和7年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、近畿農政局ホームページに掲載します。
- ・ 本調査の全国の結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載します。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予測事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病虫害の発生面積は病虫害の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：（代表）075-451-9161 内線2652

（直通）075-414-9650

近畿農政局 滋賀県拠点 統計担当

電話：（直通）077-522-4344

近畿農政局 大阪府拠点 統計担当

電話：（直通）06-6941-9659

近畿農政局 兵庫県拠点 統計担当

電話：（直通）078-391-2873

近畿農政局 奈良県拠点 統計担当

電話：（直通）0742-32-1874

近畿農政局 和歌山県拠点 統計担当

電話：（直通）073-436-3835

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：（直通）075-414-9620



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計

Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries



見たい統計を
タップして
閲覧！

スマホでみる農林統計

近畿の府県別、市町村別の主要農林水産統計データをスマホで簡単に閲覧！近畿農政局 HP からご利用いただけます。

ご利用はこちら → <https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/smart.html>

